



まなび通信

テーマ

人権尊重を基盤に据えた学校づくりのための副校長・教頭の役割

令和3年度第1回中丹はぐくみたい力育成会議

中丹地方教職員研修大会

令和3年7月5日(月)13:30~16:45

京都府総合教育センター北部研修所

【参加者】

中丹管内全小中学校 副校長・教頭 (66名)

各市教育委員 (6名)

各市教育委員会指導主事 (8名)

大研修室と第2研修室に分かれてオンラインで実施しました。

開会挨拶

京都府中丹教育局 局長 中島 浩晶



コロナ禍の状況の中、感染防止を徹底しながらの教育活動を大変お世話になっている。

- ① 新学習指導要領の着実な実施
- ② 第2期京都府教育振興プランの基本理念としての人権尊重を基盤とした教育活動の推進
- ③ 人権教育推進の柱となる基礎学力の充実と希望進路の実現

京都府教育庁指導部 学校教育課人権教育室

総括指導主事 三木 孝史 様

講義

「教職員の人権意識の高揚に向けて

～人権教育に関する教職員の意識調査結果から～



意識調査における「統一応募用紙」制定についての理解度を問う項目では、「知らない」と答えた割合が高く、特に年齢層が低くなるとその割合が高くなる。教職員として指導者の立場で、「伝えている」ではなく、児童生徒に「伝わっているのか」ということもしっかりと受け止める必要がある。

これらを踏まえ、若い世代を中心として人権問題を自分自身の問題として捉えることのできる研修が必要である。

講演

福知山市立桃映中学校

校長 一色 浩幸 様

「ミッション・パッション・

人材育成」

～思いが語り合え、勇気と元気の湧く人権教育への再挑戦～



① 「思いを語り合うつながり型授業」を目指して

生徒は、人権をしっかりと指導してくれる先生を望んでいる。「正論しか言えない人権学習」を「本音と言える人権学習」にしていく。

② 日常の教育活動全体に人権の視点を入れる

叱らない教師の褒め言葉には感動がない。いや、叱れない教師の褒め言葉には感動がない。「あかんことはあかん」と人権の視点でしっかりと叱りきる教師を生徒は信頼する。

③ 管理職として大切にしたい人材育成

管理職として、使命感と情熱を持ち、地域とのパイプ役となる。進路保障は人権教育、人権教育は進路保障であり、様々な生活背景の児童生徒をどう支援するかが大切だと考える。

参加者の感想



● 一般国民に対する意識調査等から、日本全国地域によっても意識の違いがあることなど、学ぶことが多かったです。京都府教員の中には様々な都道府県の出身の方がおられるので、温度差のない人権教育を推進するためには、年齢や地域の差も視野に入れておく必要があると感じました。

● 若い頃の人権学習の授業を思い出していました。指導案を頭にたたき込み、ほぼ自分だけがしゃべったり、資料を読んだりして授業を進めていました。子ども同士の人間関係づくりとは、ほど遠かったと反省します。本日教頭が研修する場で一色校長先生の講演を聞くことができたことは大変ありがたかったです。教頭として教員を指導するうえで大いに学ばせていただきました。